

大西 真由美

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科保健学専攻 教授

社会的不利条件下におけるエイズ孤児ケアへの高齢者の寄与拡大可能性

ナイジェリアの地方都市コミュニティにおいて、主としてエイズ孤児の祖父母世代ならびに高齢者を対象に、エイズ孤児ケアの質向上に必要な人的資源の統合プログラムを実施することにより、その成果を評価する。また、エイズ孤児の祖父母世代ならびに高齢者が、エイズ孤児ケアの質向上に寄与しうる役割と要素を明らかにし、社会的不利条件下における“親業”再構築可能性を検討した。

ナイジェリアの旧首都ラゴスから 70 Km 離れた地方都市であるシャガム地区において調査を実施した。2003 年の調査時にも協力を得たシャガム・コミュニティ・センターの協力を得て、孤児の養育者 10 人、10 歳から 18 歳の孤児 10 人をインタビュー対象者としてリクルートした。

本調査を通じて、前回調査の 2003 年から今日までの間のエイズ治療や HIV 陽性者を取り巻く環境の様々な変化とシャガム・コミュニティ・センターをはじめとする地区組織等の活動により、同地域の人々のエイズあるいはエイズ孤児に対する認識は改善し、姿勢・態度にも好ましい要素が増えてきていることが明らかになった。一方、高齢者に対しては、高齢者の価値観にも配慮した形で高齢者に特化したエイズあるいはエイズ孤児ケアに関する啓発の機会が必要であると考えられる。心理的にも様々なダメージを受けていると推察される孤児に対して、家族機能を取り戻し、家族の再編を経験できるようにするためにも高齢者を資源として活用することを視野に入れた取組みが必要だと考える。